

平成 29 年度 第 3 回 浜松市総合教育会議 次第

日時：平成 29 年 12 月 12 日(火) 15:00～17:00

場所：本館 8 階 第 3 委員会室

1 開会

2 市長あいさつ

3 本日の協議事項

(1) 学習応援システム実証研究について 資料 1

講 演 慶應義塾大学准教授 中室牧子 氏

(2) 教育における ICT の活用について 資料 2

意見交換

4 閉会

(1) 講演

中室 牧子 氏（慶應義塾大学准教授）

講師略歴

◆経歴

1975 年生まれ。

1998 年慶應義塾大学卒業。

ニューヨークのコロンビア大学公共政策大学院にて MPA（公共政策学修士号）、
コロンビア大学で教育経済学の博士号取得。

専門は、経済学の理論や手法を用いて教育を分析する「教育経済学」。

日本銀行、世界銀行、東北大学を経て 2013 年から現職。

産業構造審議会等、政府の諮問会議で有識者委員を務める。

◆著書

『「学力」の経済学』2015 年 ディスカヴァー21

『「原因と結果」の経済学』（共著）2017 年 ダイヤモンド社

協議事項 教育における ICT の活用について

1 タブレット PC 実証研究に係る教員及び保護者の声

実証研究（平成 28 年 9 月から平成 29 年 7 月まで）を行った対象校（庄内小学校、大瀬小学校及び犬居小学校）の教員及び保護者に対してアンケートを実施したところ、以下のことが分かった。

(1) タブレット PC 導入の効果及び課題・問題点

		内容等
効果	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの学習意欲が向上 <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等で、疑問を自分で解決しようとする姿勢が見られた。 ・一人ひとり集中して学習に取り組む姿が見られた。 ◎各教科での多様な活用による学習効果が向上 <ul style="list-style-type: none"> ・社会科、理科、総合的な学習の時間等の発表で、プレゼンテーションソフトなどを活用し、分かりやすい資料を作ることができ、発表する力も高まった。 ・体育科等で動画撮影により自分の動きを確認でき、その後の動きの向上につながった。 ◎子どもの情報機器活用能力が向上 <ul style="list-style-type: none"> ・機器の操作に慣れ、ストレスなく活用できるようになってきた。 ・タブレットを効果的に活用した調べ方を習得できた。
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ◎指導の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・管理ソフトの活用で、子どもの学習状況の把握が簡単にでき、子どもにも有効な声掛けができた。 ・データを「配付・回収」する機能を使い、時間が短縮できた。
課題・問題点等		<ul style="list-style-type: none"> ●タブレット PC の性能と通信環境 <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員で操作すると反応速度が遅く、フリーズしやすい等、通信環境面での不具合が発生した。 ・タブレット活用ソフトの容量が大きく、操作に時間が掛かった。 ●健康面への懸念 <ul style="list-style-type: none"> ・長時間使うと視力の低下など、健康面への影響が心配である。 ●教育の情報化に関する支援員、研修の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・機器活用のアドバイスや不具合への対応のために支援員が必要。 ・研修を通して教員の指導力を向上させる必要がある。

(2) タブレット PC 導入に対する教員への意識調査

発問	結果
タブレット PC の活用をどう感じるか。	「有効」 → 約 76% 「どちらともいえない」 → 約 24%
タブレット PC を用いることで、子どものやる気はようになったと感じるか。	「上がった」 → 約 69% 「どちらともいえない」 → 約 31%
タブレット PC を活用することへの抵抗感はあるか。	「ない」 → 約 52% 「どちらともいえない」 → 約 24% 「ある」 → 約 24%

2 新学習指導要領に向けた国の動向

- (1) 文部科学省の有識者会議（平成 29 年 8 月）
平成 30 年度から 34 年度までの第 3 期教育振興計画を視野に入れた、今後の学習活動を支える ICT 環境整備のあり方について整理している。【表 1】
- (2) 新学習指導要領（第 1 章総則）に明記（平成 29 年 3 月）
 - ア 情報手段を活用するために必要な環境を整え、学習活動の充実を図る。
 - イ 全ての学習を基盤として、情報活用能力を確実に育成する。

3 浜松市教育委員会の考え方

第 3 次浜松市教育総合計画～教育の情報化編～（平成 29 年 7 月策定）
国の示す目標値に向けて計画的な整備を行う。【表 1】

【表 1】

ICT 機器等	国の示す目標値	本市の整備状況
大型提示装置 (大型テレビ等)	普通教室・特別教室に常設	完了
実物投影装置	普通教室・特別教室に常設	普通教室の 43.6%
指導者用コンピュータ (教員用)	普通教室に 1 台	普通教室に 1 台（小 1・特別支援学級を除く）
学習者用コンピュータ (児童生徒用)	3.6 人に 1 台	7.9 人に 1 台

4 論点

浜松市教育推進大綱にある「子どもの学びと育ちを支える環境づくり」を実現するため、ICT を活用して何ができるか。

学習者用タブレット PC の活用例

- ア 発達支援学級における個々の状況に応じた学習支援
- イ 複式学級における間接指導の充実
- ウ 普通学級におけるグループ学習